

従来、日本では同じ会社に長く勤めることがよしとされてきました。しかし、社会状況が変わり、一つの場所で長く働くことは必ずしも合理的とは言えなくなってきました。混沌とした時代で、普遍的な答えを見つけることが難しいですが、多様な働き方が可能な時代とも言えます。先入観に囚われず、自分なりの最適解を見つけられるといいですね。

なぜ「同じ会社で長く」だったのか

なぜ、従来は同じ会社で長く働くことがよしとされてきたのでしょうか。「忍耐力が身に付く」、「技術が熟練する」といったことが言われるかもしれませんが、それらは結果的にそうなったということであって、それが同じ場所で長く働く目的ではないでしょう。

おそらく同じ場所で長く働くことがよしとされてきた最も大きな理由は、「その方が収入がよかったから」だと思われます。終身雇用・年功序列が保証された会社では、嫌なことがあっても我慢して働き続ければ、自然と給料が上がり、退職金も積み上がっていきました。

逆に言えば、現代のように終身雇用・年功序列が保証されない社会では、同じ会社で長く働くインセンティブは薄れていると言えるでしょう。



労働者には力がある

そのような社会では、「会社がハラスメント体質である」、「上司と合理的な対話が成り立たない」、「待遇が不満」といった事情は、仕事を变える合理的な理由になりえます。嫌なことに耐えていても昇給によって報われるわけでもないのですから。

慢性的な人手不足の時代です。対外的には強がっていても、現場は喉から手が出るほど働き手がほしいという内実を抱えているところはたくさんあるでしょう。つまり、労働者側の交渉力は増えています。

社会全体が先行き不透明であるという不安はあります。しかし、安パイがないということは、多様な働き方を試行錯誤してみる価値があるということです。旧来の価値観に縛られず、どのような働き方が心地よいのか、自分なりの最適解を見つけられるといいですね。

